

1. 【報告事項1】令和7年度事業報告

1.1 管理運営報告（総会・理事会・各委員会）

1.1.1 総会

令和7年2月28日（金）15：00から中央区中央会館（銀座ブロッサム） 宴集会室（マーガレット）およびWEB会議併用のハイブリッド形式で開催し、令和6年度事業報告、令和6年度決算報告を承認した。また、役員改選期に当り新役員（理事・監事）の選任を行った。

報告事項としては、令和7年度事業計画と予算、その他の報告を行った。

1.1.2 理事会

令和7年度内に4回の理事会を開催し、定款の定めにより事業実施状況の報告、事業計画の承認、予算案の承認、定時社員総会招集等の決議を行った。

【第1回理事会】 令和7年度第1回理事会は令和7年2月12日（水）13：30から日本大ダム会議室およびWEB会議併用のハイブリッド形式で開催し、令和6年度事業報告、令和6年度決算報告および令和7年度予算（最終）、第12回EADC名古屋収益の会員への還元方策を決議した。また、役員交代（案）およびその他の事項の報告を承認した。

【第2回理事会】 令和7年2月28日（金）16：40から中央区中央会館（銀座ブロッサム） 宴集会室（ローズ）およびWEB会議併用のハイブリッド形式で開催し、役付き役員（会長、副会長、専務、常務）の選任を行った。

【第3回理事会】 令和7年7月31日（木）10：30から日本大ダム会議室およびWEB会議併用のハイブリッド形式で開催し、事務局規則の改定（安全衛生他）、職務執行状況およびその他の事項の報告を承認した。

【第4回理事会】 令和7年12月18日（木）15：00から日本大ダム会議室およびWEB会議併用のハイブリッド形式で開催し、令和8年度事業計画および令和8年度予算案、令和8年度定時社員総会の招集、新規入会者を決議し、職務執行状況報告の承認を行った。

1.1.3 企画委員会

企画委員会を令和7年11月26日（水）に開催し、令和7年度管理・運営および事業報告ならびに令和8年度事業計画および予算に対する意見聴取を実施した。

企画委員会の傘下に事業運営方針検討分科会を設置し、「収支の現状と今後の想定」、「収支改善検討と収支改善予測」、「会員サービス向上策」について検討を実施した。検討の結果、支出改善策としては会誌の電子化が、収入向上策としては会費一時減額措置会員への会費還元要請が有効との結論に至った。また、会員サービス向上策として、法人会員所属個人への電子会誌の直接配布、LINE公式アカウントを利用したプッシュ型情報発信サービス、若手技術者を対象としたWEBINARの開催を行っていくこととした。

1.1.4 技術委員会

技術委員会を令和7年12月2日（火）に開催し、令和7年度各分科会報告および管理・事業報告ならびに令和8年度事業計画に対して意見聴取を実施した。

1.2 事業報告

1.2.1 国際交流事業

(1) 国際大ダム会議第28回大会および第93回年次例会参加報告

1) 概要

国際大ダム会議第28回大会および第93回年次例会が以下のように開催された。全体プログラムを表-1.1に示す。なお、年次例会30名以上の参加は日本（66）、フランス（66）、韓国（62）、インド（59）、イラン（53）、マレーシア（39）、英国（33）、米国（31）、スイス（30）となっている。他にカザフスタン（38）などがあるがほとんどの参加者が中国企業所属となっている。

- ・日程：2025年5月16日～23日、このうち大会は21日～23日
- ・開催場所：中国、成都
- ・会場：Chengdu Century City New International Convention and Exhibition Center
- ・参加人数：約2,800名（概算内訳 中国1,800名、他1,000名）
- ・国際シンポジウム：投稿論文数410編
- ・大会：投稿論文数147編

表-1.1 国際ダム会議第28回大会および第93回年次例会プログラム

| 日付 | 内容 | 時刻 | |
|----------|-------------|---|----------|
| 5月13～15日 | プレスタディーツアー | | |
| 年次例会 | 16日（金） | ・ICOLD 役員会議 ・技術委員会委員長会議 ・講習会 ・シティツアー | |
| | 17日（土） | ・技術委員会ワークショップ ・シティツアー ・APG ワークショップ（ランチタイム） | |
| | 18日（日） | ・技術委員会 ・ワークショップ ・若手技術者メンターセッション（ランチタイム） ・若手技術者フォーラム ・地域会議、仏語圏会議 | 若手技術者交流会 |
| | 19日（月） | ・国際シンポジウム開会式および一般セッション ・国際シンポジウム一般セッション ・技術展示会開会式および技術展示 | 歓迎会 |
| | 20日（火） | ・総会 ・技術見学会 ・ワークショップ ・技術展示会 | 文化行事 |
| 大会 | 21日（水） | ・大会開会式 ・Q108&109 総括報告および論文発表 ・技術展示会 | 日本人会 |
| | 22日（木） | ・Q108&109 論文発表 ・Q110&111 総括報告および論文発表 ・技術展示会 | |
| | 23日（金） | ・Q110&111 論文発表 ・大会閉会式 ・技術展示会 | 送別会 |
| 24～27日 | ポストスタディーツアー | | |

注) 登録は16日より会期末まで。

2) APG ワークショップ

ダム再開発にかかわる JCOLD での活動を ICOLD 内で推進することを目的として、APG ワークショップを開催した。概要は以下のとおりである。

- ・開催日時：2025年5月17日、11:30から13:20
- ・議長：角哲也 ICOLD 副総裁（アジア太平洋地域担当）
- ・事務局：JCOLD
- ・会場：年次例会会場と同じ（Chengdu Century City New International Convention and Exhibition Center, Shu Han Room）（オンライン参加を併用）



図-1.1 APG ワークショップの状況

本ワークショップに先立ち、ICOLD2024 年年次例会の APG 地域会議にて本件についての提案を行った。本年はワークショップを開催して、ICOLD 関連技術委員会の参加を要請し、ICOLD メンバーからの意見聴取を行った。昼食の時間にもかかわらず約 50 名程度が参加した (図-1.1 参照)。プログラムを表-1.2 に示す。

表-1.2 APG ワークショッププログラム

| 内 容 | 発 表 者 |
|--|--|
| Opening Remarks (Objectives of the WS) | 角哲也 ICOLD 副総裁 (京都大学教授) |
| Review of APG Meeting in the ICOLD annual meeting 2024 | 有光剛氏 (京都大学准教授、関西電力) |
| Dam Upgrading Projects in Japan and related Key Technologies | 山口嘉一 JCOLD 常務理事 (ダム技術センター) |
| Flood Control Capacity Enhancement Projects in South Korea | Dong Soon Park 氏 (K-water Research Institute, 韓国) |
| Expected Collaborations with several TCs | TC-D, M and Y (表-1.3 参照) |
| Upgrading Spillways (水理技術委員会) | A. Schleiss 教授 (元 ICOLD 総裁) |
| Discussions and suggestions | 参加者 |
| Concluding remarks | 角哲也 ICOLD 副総裁 (京都大学教授) |

TC：技術委員会

3) APG 地域会議

例年通り、アジア太平洋地域参加国による APG 地域会議を以下のように開催した。約 100 名が参加した。途中 Lino ICOLD 総裁および Corrégé 事務局長が参加し、挨拶を行った。その際に、参加国の各会長との記念撮影を行った (図-1.2 参照)。

- ・開催日時：2025 年 5 月 18 日、16:30 から 18:30
- ・議長：角哲也 ICOLD 副総裁 (アジア太平洋地域担当)
- ・事務局：JCOLD
- ・会場：年次例会会場と同じ (Chengdu Century City New International Convention and Exhibition Center, Jing Jiang Room) (オンライン参加を併用)
- ・参加：APG より 12 개국および ICOLD 技術委員会 ZA2 (Gender Diversity and Inclusion)
- ・参加国詳細：ANCOLD(Australia), CHINCOLD(China), INCOLD(India), INACOLD(Indonesia), IRCOLD(Iran), JCOLD(Japan), KNCOLD(Korea), LAD(Laos), MNCOLD(Myanmar), MYCOLD(Malaysia), NZSOLD(New Zealand), Nepal Committee (Nepal)



図-1.2 APG 会議、記念撮影 (APG 幹部および ICOLD 幹部)

4) 技術委員会

技術委員会は5月18日に開催された。日本からの委員の参加状況は表-1.3のとおりである。

表-1.3 ICOLD 技術委員会（2025年）参加状況

| 区分 | 委員会名 | 氏名 (所属) | 国際協力委員 (所属) |
|-----|-------------------|---------------------------------------|----------------------|
| A | ダム解析設計における計算問題委員会 | 森貴信 (日本工営) | 中野雅章 (Web) (日本工営) |
| B | ダム設計における地震問題委員会 | 佐々木隆 (ダム技術センター) | |
| C | ダム水理委員会 | 酒井匠 (建設技術研究所) | |
| D | コンクリートダム委員会 | 山口嘉一 (ダム技術センター) | 沼本仁志 (鹿島建設) |
| E | フィルダム委員会 | 田頭秀和 (Web) (農研機構) | |
| G | 環境委員会 | 福田悠太 (日本工営) | |
| H | ダム安全委員会 | 曾田英揮 (Web) (水機構) | |
| HWS | 歴史的水利構造物 (水利遺産) | 井上一哉 (Web) (神戸大学) | |
| I | ダムを取り巻く公衆の安全委員会 | 佐々原 秀史 (Web) (水機構) | |
| J | 貯水池堆砂委員会 | 角哲也 (京都大学) 佐藤正俊 (Web) (中部電力) | |
| K | 水力発電統合運用委員会 | 中島洋 (関西電力) | |
| LE | 堤防委員会 | 森啓年 (山口大学) | |
| M | ダム運用・維持及び補修委員会 | 吉村健 (九州電力) | |
| N | 啓発・教育委員会 | 杉山弘泰 (電源開発) | |
| O | ダム台帳・文書委員会 | 柏柳正之 (電源開発) | |
| P | セメント混合材料ダム委員会 | 安田成夫 (ダム技術センター) | |
| Q | ダム監視委員会 | 恒川明伸 (Web) (東京電力) | |
| S | ダムの安全のための洪水評価委員会 | 水橋雄太郎 (電源開発) | |
| T | ダムの将来見通しと課題委員会 | 福田忠弘 (日本工営) | |
| V | 水理機械委員会 | 山本浩樹 (八千代エンジニアリング) 安田吾郎 (IHI) | |
| Y | 地球気候変動とダム委員会 | 筒井純一 (Web) (電中研) | |
| ZX2 | 若手技術者集会 | 笹木悠佑 (八千代エンジニアリング) | |

5) 技術委員会ワークショップ、CHNCOLD 主催のワークショップ、講習会

表記が開催された。これらを表-1.4～表-1.6に示す。なお、並行して開催された APG ワークショップは上記2)で記載した。

表-1.4 技術委員会ワークショップ開催一覧 (5月17日実施)

| 主催技術委員会 (表-1.3、本表 下段注釈参照) | テーマ |
|---------------------------------|---------------------------------|
| A | ダム工学に適用される先進的な数値モデリング |
| B | フィルダムの地震解析手法 |
| C | 洪水吐のシュート、減勢池及び改良と監視 |
| E | アースフィルダムの締固め |
| E & ① | CFRD の経験と実践：40年間のレビュー |
| H | 報告書の進捗状況：ダム安全のリスク評価及びダム安全ガイドライン |
| H & ② | ダム決壊洪水の解析とシミュレーション |
| HWS | 信頼性に基づく歴史的ダムの保存コンセプトと課題 |
| K | カスケード水力発電所及び貯水池の予測と運用技術とその適用 |
| L & ③ | 鉱さい管理実務にかかわる中国と他国との情報交換 |
| LE | 堤防委員会の今後の活動 |
| M | ダム運用・維持及び補修 |
| N | 啓発・教育 コミュニケーション戦略の例 |
| P & ④ | セメント混合材料ダム |
| RE | 貯水池水没移転における優れた発展 |
| S & ⑤ | 洪水評価と水利施設のスマート運用 |
| T | ダム貯水池に設置されたフローティング PV |
| U | 強靱性と持続性のための統合化されたダム及び流域管理の経験 |
| Y | 15年間の活動を終えて：私たちは何を学び、次に何ができるのか？ |
| Z | ICOLD の人材養成 |
| ZA2 | 性別ダイバーシティ&インクルージョンの前進 |
| ZX2 & ⑥ | エネルギー転換期のダムと水資源管理 |
| APG | APG ワークショップ |

① China Huadian Co., Ltd., Chinese Society for Hydropower Engineering

② Nanjing Hydraulic Research Institute

③ Yellow River Laboratory (Henan), Beijing General Research Institute of Mining & Metallurgy Technology Co., Ltd., 中国技術委員会 コールアッシュダム委員会

④ 中国技術委員会セメント混合材料ダム委員会

⑤ 中国技術委員会 水利施設のインテリジェントな共同運用とリスク管理委員会

⑥ POWER CHINA

表-1.5 CHINCOLD 主催ワークショップ

| No. | ワークショップ名 |
|-----|-----------------------------|
| 1 | ダム建設・運用におけるデジタル・インテリジェンスの実践 |
| 2 | 貯水池ダムと新しい電力システム |
| 3 | 中国古代の水事業と技術 |
| 4 | 河川のための倫理とダムの生態学的機能 |
| 5 | 極端な気候条件下における貯水池ダムの強靱性の向上 |
| 6 | 揚水発電所の開発と展望 |

| | |
|----|--------------------------|
| 7 | 貯水池ダムと地域経済の発展 |
| 8 | 貯水池堆砂の浚渫と有効利用 |
| 9 | 水力・風力・太陽光・PSP ハイブリッド発電基地 |
| 10 | アースダムのシロアリ対策 |
| 11 | 統合的水資源管理と新規水力発電 |
| 12 | 複雑な地質環境におけるダム工学の革新と実践 |

表-1.6 講習会（有料参加）、定員各 40 名

| No. | 講習会名 |
|-----|------------------------------|
| 1 | 貯水池ダムの BIM 設計 |
| 2 | 水力発電所・貯水池の運用管理 |
| 3 | 山地河川事業の新たな水理的課題 |
| 4 | ロックフィルド・コンクリートダム(RFCD)の設計と施工 |

6) 国際シンポジウム

6-1) 概要

5月19日に開催された。投稿された論文数は39か国よりの410論文であり、これらは論文集としてまとめられ、登録時にUSBメモリによるデータにて配布された。論文集は4,660ページに及ぶ大部であった（図-1.3参照）。

口頭発表は、すべてのサブテーマが並行セッションで行われた。各論文の発表時間は20分から10分程度であった。また、ポスター発表が展示会場にて行われた。口頭発表では若手技術者賞の表彰採点が行われ、3名の表彰（中国2名、スペイン）が送別会（5月23日）にて行われた。CHINCOLDよりの依頼により柏柳専務理事はT3セッションの議長を務めた。

表-1.7 ICOLD2025 国際シンポジウム

| メインテーマ：共通の課題、未来の共有とより良いダムへ (Common Challenges, Shared Future, Better Dams) | | |
|---|-----|------|
| サブテーマ | 論文数 | 口頭発表 |
| T1: 気候変動下におけるダムと河川流域の予防的管理 | 94 | 15 |
| T2: ダムと貯水池の多目的開発 | 49 | 14 |
| T3: 複雑（極端）条件下におけるダム建設技術 | 128 | 10 |
| T4: ダムのデジタル技術及び流域のデジタル化 | 109 | 17 |
| T5: 二酸化炭素排出量削減目標を達成するためのダムの役割 | 29 | 15 |

注) 口頭発表数はT3以外は予定数。ポスター発表が展示会場にて行われた。国内外比率は分析できていないが、T3の事例では128論文中、中国100論文、海外28論文であった。

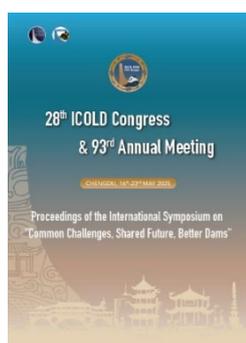


図-1.3 シンポジウム講演論文集
(全 4,660 ページ)

6-2) 開会式

開会の挨拶として Lino ICOLD 総裁、Yong CHINCOLD 会長、Liu Weiping 三峡公司社長 (EADC 名古屋 2024 に参加、当時は中国水利部副大臣)、Prof. Philippe Gourbesville IAHR 会長、Power China 社長がスピーチを行った。引き続き以下の基調講演が行われた (表- 1.8、図- 1.4 参照)

表- 1.8 国際シンポジウム、基調講演一覧

| 内容 | 講演者 |
|--|--|
| China's dam construction in the age of intelligence | Zhong Denghua: (Academician of China Engineering Academy) |
| Global perspectives of dam safety in the USA | Michael Rogers: (Hon. President of ICOLD) |
| Risk-informed approach for safe dam management | Suzanne Lacasse: (Technical Director of NGI) |
| Development and practices of reservoir water sediment regulation technology in China | Hu Chunhong: (Academician of Chinese Academy of Engineering) |
| Facing the future: challenges and opportunities in building better dams and storage | Marcus Wishart: (World Bank's Lead Water Resource Specialist) |



図- 1.4 国際シンポジウムの状況

6-3) 日本からの論文投稿および発表

日本からの論文投稿および発表状況を表- 1.9 にまとめる。

表- 1.9 JCOLD からのシンポジウム論文投稿および発表

| サブ テーマ | 発表区分 | 論文タイトル | 発表者 (所属) |
|-----------|------|--|---------------------|
| T1 | ポスター | Risk assessment of existing dams using characteristics of dynamic behavior | 柏柳正之 (電源開発) |
| T2 | ポスター | New hydraulic design of flood retention dam at the Kawabe river | 高田翔也 (土木研究所) |
| T3 | 口頭 | Re-embankment works following rehabilitation of fill dam affected by a large earthquake | 宮川美輝 (三祐コンサルタンツ) |
| T4 | 口頭 | Investigation of construction safety using three-dimensional computational fluid dynamics for dam redevelopment work | 小俣光弘 (大林組) |
| T4 | ポスター | Strategy and application of monitoring over dam basin during emergencies using SAR | 庄路友紀子 (電源開発) |

7) 技術展示（主に ICOLD 展示について）および Dams in Japan 2025 の配布

技術展示は、5月19日～23日の会期中、会議会場に隣接する成都世紀城新国際会展センターで行われた。中国の主要企業が大規模ブースをいくつも設置している様子は壮観であった。会場は昼食会場を兼ねており、多くの来訪者があった。状況を図-1.5 に示す。

JCOLD は例年通りブースを設置し、昨年と同様に「SDGs 達成のための日本のダム先端技術」をテーマとして、ダムの建設、運用・維持管理、再開発の3分野に分けて日本の技術を紹介した。

また、日本ブースでは ICOLD 大会開催に合わせて刊行している冊子“Dams in Japan”の2025年版を配布し、日本のダムに関わる種々の情報（ダム Map、新設ダム写真・構造図、関連技術情報、ICOLD 発表論文概要など）発信を行った（p.28 参照）。

来訪者には、技術説明の後にアンケートを行った。アンケート回答は22か国、計133名であった。アンケート結果については、第6回の ICOLD 技術展示企画運営委員会で分析し、今後の展示に資することとした。（p.30 参照）。20日夕方には中国の李国英水利部大臣が来訪され、その際には JCOLD ブース前には大きな人だかりが出来た。状況を図-1.6 に示す。大臣の展示会場での訪問先は、中国企業のブースが主であり、海外ブースの訪問は JCOLD ブースだけとのことであった。

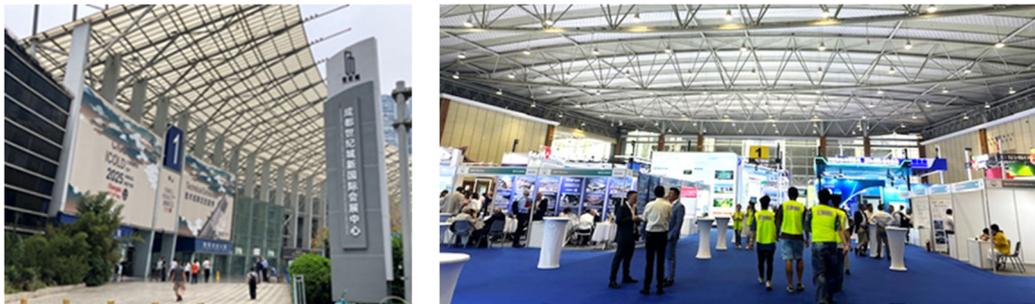


図-1.5 展示会場および JCOLD ブース

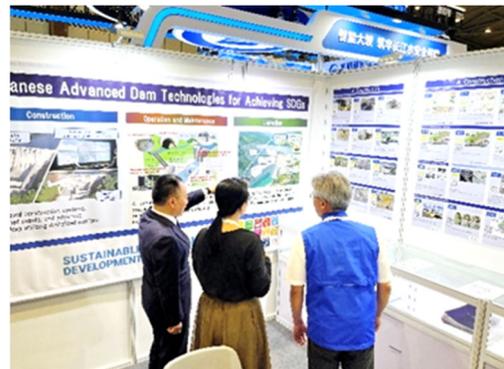
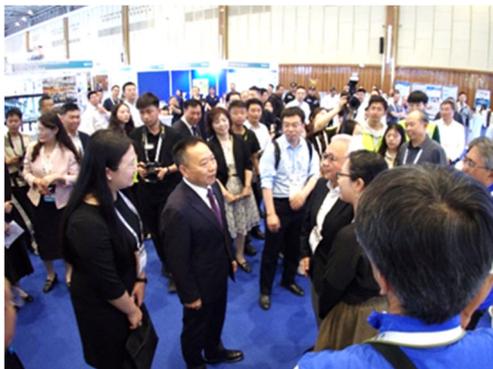


図-1.6 中国の李国英水利部大臣の来訪

8) 日本人会

5月19日、会場からはやや離れた成都中心部（シャングリラ・ホテル）で日本人会を開催した。56名が参加した（図-1.7 参照）。



図-1.7 日本人会

9) 総会

ICOLD 第93回総会が5月20日に開催された（図-1.8 参照）。参加国数は65か国と発表された。議事に先立ち、物故者の追悼が行われ、吉越洋元 ICOLD 会長を含む4名に哀悼の意を捧げた（図-1.9 参照）。以下、主要議事について記す。



図-1.8 総会の模様



図-1.9 吉越元会長追悼

9-1) 世界宣言、Chengdu Declaration on Dams and Reservoirs for Energy transition and Adaptation to Climate Change

本世界宣言は、エネルギー転換および気候変動への適応においてダムと貯水池による効用を重要な手段と位置付けることを目的とする。2023年 ICOLD 総会（ヨーテボリ、スウェーデン）において、その作成が決定され、同時に特別委員会（ZA1、活動期間 2023年～2025年）が組織（E. CIFRES（元 ICOLD 副総裁）と D. K. SHARMA 氏（前 ICOLD 副総裁（当時））の共同委員長）された。原案は、ICOLD サーキュラーレター-CL2032（2024年8月8日）により各国大ダム会議に送付された。2024年 年次例会（2024年9月）では、ワークショップが開催され、意見聴取が行われた。

総会では、ICOLD 第28回大会の開会式にて ICOLD、IHA、ICID、WWC および IEA による調印（図-1.10 参照）が行われ、成都世界宣言として正式に公表されることが報告された。



図-1.10 新しい世界宣言の調印式（大会開会式）

9-2) ILDE (ICOLD List of Dam Experts)

5月17日にワークショップを開催した。2026年までにICOLD規約(By Laws)に組み込めるよう検討する。2026年総会にて決議を行う予定との報告があった。

9-3) ダム事故データベース

ダム安全技術委員会(TCH)にて活動を行っており、2024年時点で140ケースを整理している。今後メンバーへの公表を行う予定である。(すでにICOLD HPのメンバーセクションで公開されている。)

9-4) 加盟国情報

総会時の状況は、ヨーロッパ33か国、アメリカ17か国、アジア29か国、アフリカ27か国、合計106か国である。これら加盟国の状況が表-1.10のように報告された。以下が投票(挙手)により決議された。メンバーから除外された国は、その国の大ダム会議に全く連絡が取れていない。

この結果、加盟国数は101か国となった。

- ・新規加盟：ヨルダン(アジア地域)
- ・メンバー国から除外された国(5か国)：Bosnia-Herzegovina, Algeria, Guinea-Bissau, Lesotho, Libya
連絡が全くできない国
- ・申し出により除外となった国：Denmark

表-1.10 2025年総会時点でのICOLD加盟国の状況

| 区分 | 該当国数 |
|-----------------|---|
| 登録加盟国 | 106か国 |
| E-mailで連絡ができる | 100か国 |
| 技術委員会に貢献 | 70か国 |
| 2025年参加(成都) | 65か国 |
| 2024年参加(ニューデリー) | 52か国 このうち14か国が一部会費未納 |
| 2025年論文投稿 | 28か国 |
| 会費納入 | 60か国 2024年では25%が未納。未納会費のある40か国に打診、このうち19か国が返信、5か国は納入予定 |

9-5) ICOLD 幹部選挙

① 総裁

(立候補者)

- ・Devendra Kumar Sharma 氏(India)
- ・Dean B. Durkee 氏(United States)

僅差でインド、Devendra Kumar Sharma 氏が選出された

② アメリカ地域副総裁

(立候補者)

- Luis Guillermo Vellacich Mas 氏(Paraguay)
- Camilo Marulanda 氏(Colombia)

僅差でパラグアイ、Luis Guillermo Vellacich Mas 氏が選出された

③ アフリカ地域副総裁

(立候補者)

- Femi Sonuga 氏(Nigeria)
- Leonard Kassana 氏 (Rwanda)
- Harrison E. Mutikanga 氏(Uganda)

決選投票に持ち込まれ、ウガンダ Mutikanga 氏が選出された。なお、ルワンダ Kassana 氏より直前に応援演説を依頼され、平井会長および柏柳専務理事により行なった。(図- 1.11 参照)。



図- 1.11 平井会長、柏柳専務理事による応援演説の様様

④ 次回副総裁選挙

今回は、アジア地域および EU 地域の副総裁が退任する。現在第 6 ポストの Chen 副総裁はアジア地域副総裁となり、また今回新総裁がアジア地域から選出されたため、アジア地域からの立候補はできない。次回の副総裁選挙は EU 地域と第 6 ポストであるが、立候補はアジア地域以外からとアナウンスされた。

9-6) 彙報、技術委員会の期間延長、メンバー交替等の承認

次の 2 件の彙報が承認された。

- EXTREME FLOOD ESTIMATION AND ASSOCIATED UNCERTAINTY (BUL 207)
- INTEGRATING DAMS WITH THE ENVIRONMENT: CASE STUDIES INVOLVING PLANNING, CONSTRUCTION AND OPERATION OF DAMS DEMONSTRATING ENVIRONMENTAL AND SOCIO-ECONOMIC BENEFITS (BUL 208)

9-7) 提案事項の協議

フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデンからの提案事項 (表- 1.11 参照)

1. 内容を修正のうえ再協議
- 2、3: 承認、規約の変更は不要
4. 今後特別委員会にて協議
- 5: 幹部会で承認

表- 1.11 提案事項

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 総会では英語のみを使用すること。2. 総会での選挙事項については事前周知を徹底3. 明瞭な選挙手順4. オンラインでの参加と選挙5. 彙報の出版方法、英語のみでも可能とする |
|---|

9-8) ICOLD 名誉会員

橋本徳昭元 JCOLD 会長が受賞された (図- 1.12 参照)。他に、中国および米国から各 1 名。大会閉会式にて授与式が行われた。



図- 1.12 橋本元会長 名誉会員受賞

10) 第 28 回大会

10-1) 概要

大会は 5 月 21 日～23 日で開催された。大会の課題は一昨年の総会 (スウェーデン) で決定されており、投稿された論文数は 147 論文であった。

10-2) 開会式

開会式は 5 月 21 日 8 時 30 分に開始された。最初に Lino 総裁よりのスピーチがあり、以降、四川省、成都市、WWC、IHA、CHINCOLD、ICID、三峡公司の長からの挨拶があった。続いて中国 Li Guoying 水利部大臣より Smart Dams-Concepts and Practices と題する基調講演が行われた。続いて既述 (9-1) を参照) 世界宣言、Chengdu Declaration on Dams and Reservoirs for Energy transition and Adaptation to Climate Change の調印式が行われた。

10-3) 課題討議

各課題のセッションは、総括報告 (General Report) が最初に行われ、投稿された論文をテーマ別にまとめて口頭発表が行われた。また、多くのテーマでは関連する内容が基調講演 (キーノート) として発表された。その後、各テーマにおいて質疑や討議が行われた。以下①～④に各課題セッションの概要を示し、日本からの論文投稿および発表の状況を表- 1.16 に示す。

① 課題 108 気候変動に対応するダムと貯水池 (DAMS AND RESERVOIRS FOR CLIMATE CHANGE ADAPTATION)

1. 揚水発電用貯水のためのダム、固有の特性、設計、実用事例
2. 貯水及び洪水緩和のための河道外ダム
3. 沿岸ダム及び潮汐発電所
4. 帯水層への補給及び新たなコンセプトのためのダム
5. 湖上太陽光発電、チャンスとリスク
 - ・ 投稿論文数：22 編,
 - ・ 議長：Jia Jinsheng 氏, Emma Hagner 氏
 - ・ GR: Luc Deroo 氏

表- 1.12 課題 108 候変動に対応するダムと貯水池

| テーマ | キーノート | 口頭発表 (編) |
|--------------------------------|-------|----------|
| テーマ 1:ダムおよび貯水池と気候変動への適応、国際的な視点 | 2 | 7 |
| テーマ 2: 揚水発電のためのダムと貯水池 | 2 | 6 |
| テーマ 3: 気候変動への適応における貯水池の革新 | 1 | 7 |

- ② 課題 109 次世代に適合するダムと堤防 (DAMS AND LEVEES FIT FOR THE FUTURE)
1. 運用、保守と再開発の観点における様々に経年化したダムの管理 (リスクベース手法を含む)
 2. 建設時及び再開発時の安全
 3. 小規模ダム及び堤防の特殊事例
 4. ダム安全にかかわる契約方法の影響 (たとえば、民間セクターの関与、EPC 契約)
 5. 増大する開発困難なサイトとその新しい課題
 6. 包括的な能力構築の必要性
 - ・ 投稿論文数: 51 編
 - ・ 議長: Jean-Pierre Tournier 氏
 - ・ GR: Li Shuguang 氏 (三峡公司)

表-1.13 課題 109 次世代に適合するダムと堤防

| テーマ | キーノート | 口頭発表 (編) |
|-------------------------|-------|----------|
| テーマ 1: 管理の方針と法規制 | | 9 |
| テーマ 2: 基礎の安定 | 1 | 8 |
| テーマ 3: ダム安全にかかわる技術革新 | 2 | 6 |
| テーマ 4: 監視や改良によるダム安全性の向上 | | 8 |

- ③ 課題 110 極端水文事象時のダムと堤防の安全 (SAFETY OF DAMS AND LEVEES FACING EXTREME HYDROLOGICAL EVENTS)
1. 極端事象 (たとえば、洪水、濁水、台風、氷河湖決壊に起因する洪水) の評価
 2. 極端洪水に対する構造物の安全性評価及び他の対策 (たとえば、ダムかさ上げ、洪水吐容量、貯水池運用)
 3. 洪水予測及び流域内のダム群に関する水理的管理
 4. 洪水データお及び洪水緩和法の再評価、たとえばヒューズ施設、越流抵抗力、制御された決壊、警報や避難、危険・緊急時計画
 - ・ 投稿論文数: 28 編
 - ・ 議長: Lisa Bensasson ICOLD 副総裁、Zeping Xu 教授 (CHINCOLD)
 - ・ GR: Enrique Cifres (元 ICOLD 副総裁)

表-1.14 課題 110 極端水文事象時のダムと堤防の安全

| テーマ | キーノート | 口頭発表 (編) |
|-------------------------------|-------|----------|
| テーマ 1: 過去の事象と不確実性を考慮する極端事象の予測 | 2 | 4 |
| テーマ 2: 極端条件下の構造物の安全評価 | 1 | 6 |
| テーマ 3: リスクの緩和、構造物の復元力の評価と向上 | 1 | 6 |
| テーマ 4: リスクの緩和、統合化された洪水対応の手法 | 1 | 5 |

- ④ 課題 111 ダムの地震時の性能と安全 (EARTHQUAKE PERFORMANCE AND SAFETY OF DAMS)
1. 常時、地震時及び地震後のダム計測
 2. 鉦さい及び堤防の決壊事例を含む地震時の事故事例からの教訓
 3. 多様な地震ハザード (たとえば地盤の振動、表層断層のずれ、大規模な変位) の重要性
 4. ダム構造物、貯水池周辺部及び影響領域における耐震設計と性能基準
 5. すべての形式のダム及び安全性重要な構造物 (たとえば洪水吐、底部放流管) の地震時安全性評価
 - ・ 投稿論文数: 46 編
 - ・ 議長: Martin Wieland 氏 (地震委員会委員長)
 - ・ GR: Trevor Matuschka 氏

表- 1.15 課題 111 ダムの地震時の性能と安全

| テーマ | キーノート | 口頭発表 (編) |
|------------------------|-------|----------|
| テーマ1:ダムの耐震設計 | 1 | 3 |
| テーマ2:既存ダムの耐震性能と安全性評価 | 2 | 2 |
| テーマ3:コンクリートダムの耐震設計と安全性 | 1 | 5 |
| テーマ4:フィルダムの耐震設計と安全性 | 3 | 2 |

表- 1.16 ICOLDからの投稿論文および発表

| 発表 | 課題番号 | PAPER TITLE | 著者(所属) |
|---------|------|--|--------------------|
| Keynote | 108 | RESERVOIR, CLIMATE CHANGE AND BIODIVERSITY | 角哲也 (京都大学) |
| 依頼発表 | 108 | PROMOTION OF "HYBRID DAM" INITIATIVE IN JAPAN, | 福田忠弘 (日本工営) |
| 口頭 | 109 | INVESTIGATION OF CONSTRUCTION OPTIMIZATION OF A HEIGHTENED CONCRETE GRAVITY DAM | 安田成夫 (ダム技術センター) |
| 口頭 | 109 | LARGE-SCALE RESERVOIR DAM MANAGEMENT AIMED AT MITIGATION OF LONG-TERM TURBIDITY IN THE HITOTSUSE RIVER | 徳永和紀 (九州電力) |
| 口頭 | 109 | LONG-TERM IN-SITU MONITORING ON DYNAMIC MODULUS OF ELASTICITY OF DAM CONCRETE AND ITS VERIFICATION BY THE ANALYSIS OF DAYNAMIC BEHAVIOR OF THE DAM | 野崎渉太 (電源開発) |
| 口頭 | 110 | CASE STUDY AND ANALYSIS OF SURGE WAVE AND EXCESSIVE FLOOD IN HYDROPOWER DAMS | 恩田千早 (電源開発) |
| | 111 | OPTIMIZATION OF THE CROSS-SECTIONAL DESIGN OF TRAPEZOIDAL CSG DAMS | 安田成夫 (ダム技術センター) |
| | 111 | SEISMIC ANALYSIS AND REINFORCEMENT METHOD FOR SMALL GRAVITY DAM WITH HORIZONTAL CRACKS | 川崎秀明 (ダム技術センター) |
| 口頭 | 111 | NONLINEAR ANALYTICAL MODELING OF DAM GATED PIER BASED ON EARTHQUAKE RECORDS | 松岡賢樹 (関西電力) |
| Keynote | 111 | BEHAVIOR OF DAMS IN JAPAN DUE TO STRONG EARTHQUAKE MOTIONS FOCUSING ON THE PAST 20 YEARS | 佐々木隆 (ダム技術センター) |
| | 報文 | IMPROVEMENT OF FLOOD DISCHARGE FACILITIES IN THE SENGOWA DAM REDEVELOPMENT PROJECT | 山田史章 (清水建設) |

11) ICOLD 技術革新賞

選定は角哲也副総裁を長とする委員会により行われ、鹿島建設(株)が応募した自動化施工技術が銀メダルを受賞した(図- 1.13 参照)。全体で 10 件が応募したが、内 3 件は締め切り後の応募であり、7 件(米、中国、仏(2件)、ノルウェー、イラン、日本)から 3 件にメダルが授与されることになった。金賞は中国のアーチダムにおける温度クラック制御技術、銅賞はフランスの水中での堆砂掘削技術が受賞した。



図-1.13 ICOLD 技術革新賞の受賞（左から角副総裁、Lino 総裁、松本氏、沼本氏）

12) 技術見学およびスタディツアー

12-1) 技術見学会

会期中の技術見学会として、2 コースが開催された。

ルート A：都江堰(Dujiangyan)プロジェクトと青城山(Mount Qingcheng)

ルート B：紫坪埔(Zipingpu)ダムと麗家堰(Lijiaayan)ダム

12-2) スタディツアー

(プレツアー)

下記2 コースが開催され、JCOLD からは2 人が参加した。

Pre 1. 長江沿い-葛洲プロジェクト-三峡プロジェクト、Shubuya プロジェクト

Pre 2. 大渡河沿い-Changhe ダム-Houziyan ダム-Shuangjiangkou ダム

(ポストツアー)

下記5 コースが開催され、JCOLD からは3 人が参加した。

Post. 1 長江沿い-葛洲プロジェクト-三峡ダム・丹江口(Danjiangkou)ダムまで

Post. 2 大渡河 (Dadu River) 沿い-Changhe ダム-Houziyan ダム-Shuangjiangkou ダム

Post. 3 Yalong River 沿い-Jinping ダムプロジェクト-Yangfanggou アースダム

Post. 4 黄河沿い (中) -小浪底プロジェクト-三門峽 Sanmenxia プロジェクト、黄河博物館

Post. 5 中国東部-Xin'anjiang ダム-Liyang 揚水発電所、良渚遺跡、中国水利博物館

なお、準備を行った日本ツアー（足羽川ダム、黒部ダム等）は、CHINCOLD による働きかけもあったものの、最終的には参加者不足のため中止とせざるを得なかった。準備にかかわった日本ツアーWG のメンバーの方々、現地の近畿地方整備局、足羽川ダム工事事務所、関西電力の関係者には、この場を借りてお詫びとともにお礼を申し上げる。

13) 文化行事

シティツアー（5月16日、17日）、歓迎会（5月19日）、文化行事（5月20日）、送別会（5月23日）が開催された。

14) JCOLD と他大ダム会議との会合

本会期中に他国大ダム会議と以下の会合を持った。

14-1) 韓国大ダム会議 (KNCOLD)

双方の会長、副会長他が出席した。2027 年に韓国、デジョンで開催される ICOLD 第 95 回年次例会での協力を依頼され、了承した。話題としては共同ワークショップの開催などがでた。今後、KNCOLD にてテーマや内容を検討の上、検討を進める（図-1.14 参照）。

14-2) アルバニア大ダム会議 (ALBCOLD)

ALBCOLD 会長他、JCOLD 会長、副会長他が出席した。ALBCOLD として技術継承、ダムのモ

ニタリング、堆砂測量などの課題がある。大きな懸念として、Koman ダム (CFRD) では、安定はしているものの大量の漏水がある。これについて今後現地 JICA 事務所と対応を協議し、その後の対応について JCOLD とも協議する (図-1.15 参照)。

14-3) 米国大ダム会議 (USSD)

Dean Durkee ICOLD 副総裁が 2025 年 8 月に来日。JCOLD と情報交換を行い、双方の活動について紹介を行った。また、次年度 USSD 会議 (2026 年 5 月 4~7 日) に JCOLD からの参加を協議したが、ICOLD2026 (メキシコ、2026 年 5 月 23~28 日) の日程との関係で難しいとの結論となった (図-1.16 参照)。



図-1.14 KNCOLD との協議



図-1.15 ALBCOLD との協議



図-1.16 USSD との協議

(2) アルバニア大ダム会議来日、技術交流報告

1) 概要

2023 年スウェーデン・ヨーデポリ年次例会時に JCOLD と ALBCOLD で MOU を締結した。直後に、ALBCOLD より日本のダムの維持管理に関わる技術資料の提供を求める要望があり、JCOLD はこれに応え、関係資料を送付した。2024 年 12 月 22 日に平井会長宛にメールが届き、MOU に基づき、2025 年 3 月末または 4 月初旬に ALBCOLD のメンバー数名 (5~6 名) によって日本を訪問したいとの連絡があった。JCOLD では、この要望に応えるべく、国土交通省水管理・国土保全局治水課、河川計画課国際室、独立行政法人水資源機構、関西電力株式会社の全面的な協力のもと、ALBCOLD を招待することとした。(滞在中の公式スケジュール間の食事(主に昼/夕食)、移動費用(新幹線は除く)は JCOLD が負担)

2) アルバニアのダム

アルバニアは、652 基のダムを有する。このうち堤高 15m 以上の大ダムは 350 基、さらにそのうち堤高が 60m 以上の大ダムは 10 基ある。最も高い堤高を有するダムは 166.5m、最も長い堤頂長を有するダムは 3,480m である。大ダム 350 基を型式別にみると表-1.17 に示すとおりであり、目的別にみれば表-1.18 に示すとおりである。

表- 1.17 大ダム型式別基数

| ダム型式 | 基数 |
|-----------------------|-----|
| アースダム | 335 |
| 重力式コンクリートダム (在来工法) | 3 |
| コンクリート表面遮水型ロックフィルダム | 2 |
| RCCダム | 1 |
| 土質遮水壁型ロックフィルダム | 5 |
| アスファルト中央遮水壁型ロックフィルダム | 1 |
| ジオテキスタイル表面遮水型ロックフィルダム | 3 |

表- 1.18 大ダム目的別基数

| 主たる目的 | 基数 |
|--------|-----|
| 水力発電 | 24 |
| 農業、魚養殖 | 324 |
| 飲料水供給 | 2 |

3) 来日者と日程

3-1) 来日者

当初来日が予定されていたのは次の6名であるが、ALBCOLD会長と奥様が出発当日にパスポートの問題（詳細は不明）で、急遽来日できなくなり、4名の来日となった。

- ・アルジャン・ジョヴァニ技師-ALBCOLD会長(急遽、来日取り止め)
- ・エルマル・カチュリ技師-ALBCOLDメンバー、アルバニア電力公社ダム安全部門部長
- ・ヤンブロ・ドゥニ教授-ALBCOLDメンバー、地震学の専門家
- ・エルマル・ヌリ技師-アルバニア電力公社発電部門部長
- ・ミリアム・ンディニ博士-ALBCOLD技術委員会メンバー、エポカ大学講師
- ・エルヴィラ・ジョヴァニ夫人-アシスタント(急遽、来日取り止め)

3-2) 日程

日程を表- 1.19に示す。

施設見学場所は、来日者の希望により関西方面とし、東京からの移動も希望によって新幹線を利用した。

表- 1.19 日程

| | 午前 | 午後 | 夜 | 宿泊地 |
|-----------------------|--------------------------|------------------------------|------|-----|
| 第1日 3月25日 (火曜日) | 日本大ダム会議 幹部との打ち合わせ | ウェビナー (Webセミナー) 於：国交省会議室 | 歓迎会 | 東京 |
| 第2日 3月26日 (水曜日) | 移動 (東京→京都、 新幹線のぞみ) | 国土交通省 天ヶ瀬ダム見学 | 自由時間 | 京都 |
| | | 関西電力株式会 社 喜撰山ダ ム・発電所見学 | | |
| 第3日 3月27日 (木曜日) | 日吉ダム見学 | 渡月橋上流可動式止水壁見学 | 送別会 | 京都 |

4) 日本大ダム会議との協議とウェビナーの開催

4-1) 日本大ダム会議との協議

1日目の午前は、午後のセミナーに先立ち日本大ダム会議でJCOLD幹部との顔合わせ後、柏柳

専務理事より JCOLD の活動内容紹介と日本のダムの現況について説明を行った。主な内容は、日本におけるダムに関連した法体制の紹介、近年のダム関連の動向、ダム管理業務、監視・モニタリング手法、さらに地震時における構造的応答や耐震設計の側面などであった。その後、質疑・応答、意見交換が行われた。JCOLD からの出席者は、平井会長、佐々木副会長、柏柳専務理事、野口事務局長の4名であった。



図-1.17 JCOLD との打ち合わせ

4-2) ウェビナー (Web セミナー) の開催

1 日目の午後は、国交省会議室に場所を移し、「日本とアルバニアにおけるダムの安全性、管理、および再開発」と題し、JCOLD と ALBCOLD で交互に発表を行い、その状況を Web によって公開した。また、会議途中からは、来日が叶わなかった ALBCOLD 会長のジョヴァニ氏も Web を通じて参加した。

表-1.20 ウェビナー・プログラム

| 時間 | タイトル | 発表者 |
|-------------|--------------------|------------------------------------|
| 13:30~13:35 | 開会挨拶 | 柏柳専務理事 (JCOLD) |
| 13:35~13:50 | ALBCOLD 紹介ショートムービー | ALBCOLD |
| 13:50~14:05 | アルバニアにおける大規模ダムと貯水池 | ミリアム・ンディニ博士 & エルマル・カチュリ氏 (ALBCOLD) |
| 14:05~14:20 | 日本におけるダムの安全管理 | 三浦課長補佐 (国土交通省、河川環境課 流水管理室) |
| 14:20~14:35 | アルバニアの大規模ダムと地震 | ヤンブロ・ドゥニ教授 (ALBCOLD) |
| 14:35~14:50 | 日本における土砂管理 | 角教授 (ICOLD 副総裁、京都大学) |
| 14:50~15:05 | アルバニア電力公社におけるダムと発電 | エルマル・ヌリ技師 (ALBCOLD) |
| 15:05~15:20 | 日本におけるダムの再開発 | 有光准教授 (京都大学・関西電力) |
| 15:20~15:40 | 質疑応答 | — |

ウェビナー終了後は、かねてより ALBCOLD 側から要望があった、「堆砂のモニタリングに関する技術」に関して、恩田准教授 (京都大学・電源開発) にご参加いただき、水力発電用ダムにおける堆砂のモニタリング技術についてご発表、質疑・応答を経て1日目の予定を終了した。



図-1.18 ウェビナーの状況



図-1.19 参加者集合写真

5) 日本のダム案内

5-1) 国土交通省 天ヶ瀬ダム見学

ダム再開発の事例として天ヶ瀬ダムを見学していただいた。天ヶ瀬ダムでは善本所長自ら、英語でのご説明と現地案内をしていただいた。アルバニアにはアーチダムが無いことから、非常に興味を持って頂いたようで、キャットウォークも歩いて頂いた。

5-2) 関西電力(株) 喜撰山ダム・喜撰山揚水発電所見学

電力会社に勤務される方が二人いらっしゃったので、関西電力(株)が所管される喜撰山ダム・喜撰山揚水発電所を見学していただいた。同施設では関西電力(株)京都水力センターの松本所長代理から、英語でのご説明と現地案内をしていただいた。

5-3) (独)水資源機構 日吉ダム見学

市民に開かれたダムとして日吉ダムを見学して頂いた。同ダムでは、市原所長が自ら英語でのご説明、施設案内を行っていただいた。市民に開かれたダムの状況に関し、ALBCOLD は非常な驚きを持たれていた。

(3) ICOLD 元副総裁 Dean B. Durkee 氏ほか来日、技術交流報告

SIP スマート防災※1 国際セミナー等の関係で、2025年8月20日(水)～26日(火)の行程でIAHR(国際水圏環境工学会)会長の Philippe Gourbesville 氏、ICOLD 元副総裁の Dean B. Durkee 氏、GEI Consultants 副社長の David Gutierrez 氏の3氏が来日した。

これに合わせて、8月20日(水)、日本大ダム会議会議室において3氏と平井会長、多田副会長、角教授他、4名計10名によって意見交換が行われた。冒頭、日本大ダム会議平井会長から挨拶の後、Durkee 氏による「USSD (アメリカダム協会) の歴史と組織の最新情報」と題し、Gourbesville 氏からは「水環境の科学と技術を率先する IAHR」と題し、また日本大ダム会議からは柏柳専務理事により「JCOLD と日本のダムの現状」と題して、各3団体の活動状況が各々紹介され、その後意見交換を行った。意見交換では、お互いの活動内容において初めて知ることが多々あった一方、3団体とも多くの共通的な課題に取り組んでおり、今後緊密に連携を図っていくことが確認された。



図-1.20 意見交換の様子

(4) KNCOLD および韓国水力・原子力発電来日、技術交流報告

KNCOLD および韓国水力・原子力発電 (KHNP) は、2025年8月25日から28日の4日間の日程で来日した。主な目的は、既設水力発電所の保守・運用、これにかかわる最新技術、また再開発技術などの調査であった。特に、韓国では既設水力発電所の合理的な維持運用が課題であり、さらに複数の揚水発電所の新設計画がある。KHNP はその実施主体として日本の電力会社との意見交換を希望し、電源開発 (株) 殿がその対応に当たって頂いた。

韓国側からは、KNCOLD より Dong-Hoon SHIN 博士 (K-water Research Institute) が、KHNP から Seungoh LEE 教授 (Hongik University) と Sumin SONG 研究員 (Hongik University) の計3名が参加された。8月27日の午後には JCOLD を訪問され、意見交換を行った。



図-1.21 意見交換の様子

(5) 日本・シンガポール洪水レジリエンスフォーラム参加報告

1) 概要

日本国国土交通省とシンガポール共和国公益事業庁にて共同開催された題記フォーラムに参加し、柏柳専務理事が日本のダムを取り巻く状況について報告した。

- ・開催日時：令和7年1月8日(水) 10:00-16:10
- ・主催者：日本国国土交通省 & シンガポール共和国公益事業庁
- ・場所：国土交通省中央合同庁舎2号館12階国際会議室

2) 参加者

シンガポールからの参加者を表-1.21 に示す。

表-1.21 シンガポール側出席者

| 氏名 | 役職 | 所属 |
|--|----------------------------|---|
| ネオ・チュン・フイ・モリス Neo Choon Hwee MAURICE | 部長 Director | 公益事業庁PUB (Public Utility Board) 河川流域・水路部 |
| リュウ・チュン・ホン・ダーレン Lew Cheun Hong DARREN | 副部長 Deputy Director | 公益事業庁PUB 洪水・災害対応部 |
| ジョアン・シウ・ルヤン Joanne Siew RUYAN | 副部長 Deputy Director | 公益事業庁PUB 流域計画、開発制限・方針 |
| レオン・ジン・ウェイ・サビナ Leong Gen Wei SABINA | 上席技師 Executive Engineer | 公益事業庁PUB 河川流域・水路管理センター |



図-1.22 シンガポール来日メンバーと柏柳専務理事によるプレゼン状況

1.2.2 調査研究事業（技術委員会分科会、WG）

(1) 技術委員会 国際分科会

1) 国際分科会の開催

4月22日に第1回国際分科会を対面およびオンライン併用で開催し、成都大会・年次例会の開催前の各技術委員会の活動報告を行った。また、成都年次例会の中で JCOLD 運営による APG ワークショップの開催について概要の共有を行った。

6月16日には第2回国際分科会で開催し、成都大会・年次例会における各技術委員会の活動内容の報告を行った。

2) ICOLD 成都 第93回年次例会技術委員会への参加

日本が参加登録している21の技術委員会へ、18名が現地参加（代理を含む）し、8名がWEB参加した。参加報告は上記国際分科会で報告されたほか、会誌大ダム(2025年10月号)に報告した。

3) APG ワークショップの開催

APGはICOLDに複数ある地域会議のうち、アジア太平洋地域に属する国によるものである。APGの議長国は、ICOLD副総裁のうちアジアポストを担っている副総裁の所属国が担うこととなっている。現在この役職を京都大学防災研究所 角特定教授が務めており、日本がAPGの議長国となっている。（詳細は、p.2のとおり。）

5月17日に、APG議長国として「Workshop on Dam Upgrading for Climate Resilience and Energy Transition」と題してワークショップを主催し、60名を超える参加者が集まった。

ワークショップでは日本からの「ダムの効用増大および流域環境向上のためのダム再開発事例分科会」の取組み紹介や、韓国のダム再生事例の紹介、関連する ICOLD 技術委員会からの取組み紹介が行われた。

4) APG 会議の開催

5月18日には議長国である JCOLD 事務局の運営により APG 会議が開催され、日本、中国、韓国、イラン、インド、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、ミャンマー、ラオスの11カ国が参加した。（詳細は、p.3のとおり。）

5) 査読 WG の開催

2025年1月22日に中国・成都 ICOLD 年次例会国際シンポジウムの本論文査読結果（5編）の確認を行った。

2025年8月に第94回グアダラハラ年次例会国際シンポジウムに提出する論文要旨（25編）の査読を行った。

6) 投稿論文検討 WG の開催

2025年9月に「投稿論文検討WG」を設置した。

本WGは、これまで執筆者の自主性に委ねていた ICOLD 年次例会等への論文投稿に加えて、国際会議の場を会員各位のビジネス展開の好機としてより活かしていただくことを狙いとして、我が国が有するダムの諸課題に対する解決策の実績を念頭に、年次例会や大会で設定されるテーマとの親和性を考慮して、JCOLD として関連する会員に論文投稿を働きかけることを目的とするものである。

11月5日の第1回ワーキンググループにおいて ICOLD 第29回大会の課題提案内容（2026年1月26日：ICOLDへの提案期限）について検討を行った。

7) JCOLD-YPF (Young Professional Forum) の活動

2025年11月18日に、設楽ダムへの現地見学会を開催し14名が参加した。

2025年12月15日に、若手技術者を対象とした勉強会を開催した。講演者として京都大学防災研究所 角特定教授および京都大学 小柴助教を迎え、講演内容を起点とした若手によるグループディスカッションを行った。（詳細はp.32参照）

(2) 技術委員会 ダムコンクリート凍害実験研究分科会

1) ダムコンクリート凍害実験研究分科会概要

①目的：寒冷地にあるダムコンクリートの気象作用に対する耐久性とコンクリート供試体による耐久性試験結果との関連性を明らかにする

②開始：1961年

③歴代委員長：國分正胤 東京大学名誉教授
小林正几 法政大学名誉教授
長瀧重義 東京工業大学名誉教授
現 石田哲也 東京大学教授

④実施概要

表-1.22 に示す7地点に、1m×1m×1mの大型コンクリートブロックおよびφ15cm×h30cmの円柱、もしくは10cm×10cm×40cmの角柱小型供試体を設置し、経年変化を測定

表-1.22 試験地点並びにコンクリートブロックの設置数

| 試験実施地点 | 実施機関 | コンクリートブロック数 | コンクリートブロックの製造年月 |
|----------------------|-------------------------------------|--------------------------|---------------------|
| 黒部ダム | 関西電力株式会社 | 16 ¹⁾ (22) | 1961年11月 |
| 奥新冠ダム | 北海道電力株式会社 | 8 | 1962年9月 |
| 奥只見発電所 ²⁾ | 電源開発株式会社 | 8 (1) ³⁾ | 1963年10月 1960年一月 |
| 大鳥ダム | 電源開発株式会社 | (1箇所) ⁴⁾ | 1963年9月 |
| 仙美里ダム | 北海道電力株式会社 電源開発株式会社 ⁵⁾ | 7 | 1962年9月 |
| 川俣ダム | 国土交通省 鬼怒川ダム統管理所 | 6 | 1964年7月 |
| 水殿ダム | 東京電力HD株式会社 | 24 | 1969年7月 |

- 1)一部のブロックを搬出 2)ブロックの配合は大鳥ダム配合を参考
3)発電所放水路擁壁にて測定 4)ダム上流面に測定孔を設けて測定
5)測定を引き継ぎ

曝露供試体については1回/年を原則として以下の項目を測定。

計測結果は毎年12月に開催される、「ダムコンクリート凍害実験研究分科会」にて報告、審議される。また、審議結果については翌年の計測計画に反映される。

- ・ 大型供試体の超音波伝播速度
- ・ 小型供試体の超音波伝播速度、一次共鳴振動数、重量変化
- ・ 曝露地点の気象および水位
- ・ その他地点独自で実施した計測項目

測定結果については、これまで4回、ICOLD大会、年次例会にて報告。最新の報告は第58回ダム技術討論会(2025年11月)。

また、2005年、2014年より曝露試験を開始した表-1.23、表-1.24示す地点、ならびに低品質骨材(所要の品質を満足しない)を用いたコンクリートの小型供試体の曝露試験(国土交通省東北地方整備局東北技術事務所、1987年開始)についても、分科会にて報告、審議している。

表- 1.23 滝沢ダムおよび奈良俣ダムにおける曝露試験

| 試験実施地点 | 実施機関 | コンクリートブロック数 | コンクリートブロックの製造年月 |
|--------|-------------|-----------------|-----------------|
| 滝沢ダム | 独立行政法人水資源機構 | 3 ¹⁾ | 2005年8月 |
| | | 4 ²⁾ | 2007年8月 |
| 奈良俣ダム | 独立行政法人水資源機構 | 3 ¹⁾ | 2005年6月 |
| | | 4 ²⁾ | 2007年8月 |

1)大型ブロック(1.0m×1.0m×1.0m)

2)小型ブロック(0.5m×0.5m×0.5m)

表- 1.24 津軽ダムにおける曝露試験

| 試験実施地点 | 実施機関 | コンクリートブロック数 | コンクリートブロックの製造年 |
|--------|------------------|------------------|----------------|
| 津軽ダム | 国土交通省 岩木川ダム統合管理所 | 16 ¹⁾ | 2014 |

1)大型ブロック(1.2m×1.2m×1.0m) 長期測定用ブロック4体

2) 令和7年度の活動

① 第63回(令和7年度第1回)凍害実験研究分科会

令和7年6月10日(火)に各参加機関における今年度の調査計画の報告および審議等を対面ならびにweb会議により実施した。主な内容は以下のとおり。

i)参加機関の測定計画

各機関とも例年どおりの測定を実施予定

ii)分科会活動報告の作成

データ整理状況及び活動報告作成スケジュールについて確認した。

② 第58回ダム技術講演討論会

令和7年11月12日(水)に東京都月島教育会館において開催された第58回ダム技術講演討論会において、技術委員会分科会活動報告として、分科会の活動用内容と試験結果について報告を行った。

③ 第63回(令和7年度第2回)凍害実験研究分科会

令和7年12月19日(金)に各参加機関における定例測定結果の報告と内容審議を行った。また、会誌「大ダム」に掲載予定の活動報告(第3報)の記載内容の審議を行った。

(3) 技術委員会 既設ダムの合理的な活用・運用方策検討分科会

1) 報告書の作成

活動の終了に当り、6章からなる報告書(60頁)を120冊新たに印刷した。

1. 分科会設置の経緯・目的・調査検討項目
2. 近年の災害事例と社会情勢
3. 最新の気象・気候変動予測技術と適応に関する動向
4. 合理的かつ実用的なダム操作の在り方
5. まとめ
6. 提言

2) 報告書配布先

会員各社・団体、協力頂いた関係先、分科会委員、三省本省窓口

(4) 技術委員会 ダムの効用増大および流域環境向上のためのダム再開発事例分科会

1) 分科会の概要

日本は、既設ダムを運用しながら改造していく技術に長けており、世界的に見ても先端的と

思われる。その見える化のためにも、関連技術を体系的に整理してどのような技術・事例が関連しているのかをまずは国内で整理し、それを海外に展開することを目的とする。これにより、我が国の技術の現状把握・情報発信に留まらず、国際技術交流を図る。

2) 令和7年活動報告

① 活動実績

| 年月日 | 会議／行事 | 内容 |
|------------|--------------------|------------------------|
| 2025/04/09 | コアメンバー打合せ | 成都 ICOLD に向けた調整 |
| 2025/05/17 | ICOLD APG Workshop | ダム再生技術体系化の取組紹介・意見交換 |
| 2025/05/18 | ICOLD APG Meeting | APG Workshop の報告 |
| 2025/06/20 | コアメンバー打合せ | ICOLD での議論を踏まえた作業方針の協議 |
| 2025/08/07 | R7年度第1回分科会 | 作業方針の協議 |
| 2025/10/16 | KNCOLD と WEB 会議 | 韓国のダム再生事例の情報提供依頼 |
| 2025/11/05 | コアメンバー打合せ | 作業進捗の確認・作業方針の協議 |

② 活動内容

まず、国内のダム再生事例を対象として、下記の4項目の情報収集・整理・分析中。並行して海外事例への適応可否を確認するために、KNCOLDへ韓国のダム再生事例の情報提供を依頼中。

・フローチャート：

ダム再生の目的の3つのS (Dam Safety, Smart Use, Sustainability) に対して、方法、要素技術、事例を紐づけ。

・ショートリスト：

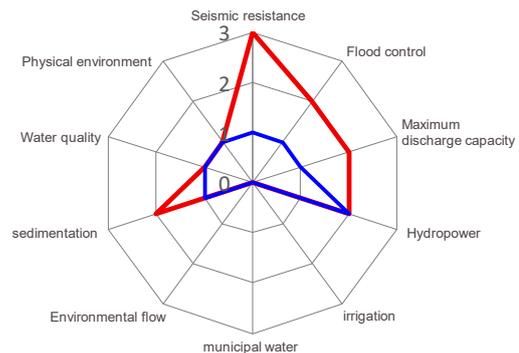
ダム再生方法毎に、日本のダム再生事例をリスト化。技術の発展（嵩上げ高・穴開け規模などの変遷）とも関連付け。

・レーダーチャート：

ダム再生前後でのダムの機能の向上を可視化。10個の機能を抽出して、ダム再生前後で得点付け。

・制約条件：

構想時および設計時の制約条件（嵩上げ高・水位低下の可否など）を整理。



レーダーチャートのイメージ

(5) 技術委員会 ダム及び基礎の地震時加速度記録更新分科会

1) 活動目的と概要

日本大ダム会議では、日本の多くのダムで実施されているダム地震観測の有用性に鑑み、ダム基礎岩盤あるいは監査廊において 25 cm/s² 以上の加速度を得た地震記録を「ダム及び基礎の地震時加速度記録」としてデータベース化し、1978年、2002年、2014年にそれぞれ発刊してきた。

前回発刊後、平成28年熊本地震 (M7.3)、平成30年北海道胆振東部地震 (M6.7)、令和6年能登半島地震 (M7.6) などの地震が発生し、貴重な記録が蓄積されたことから、日本大ダム会議に本分科会を設置し、2012～2024年にダム地点で記録された地震記録を収集し、2026年度目途に「Acceleration Records on Dams and Foundations No. 4」を発刊することを目的に活動している。なお、対象ダムは過去に倣って、参加委員により収集可能な範囲に限定する。

2) 活動目的と概要

①第1回 令和6年12月18日(水) 15:00～17:00

本分科会の設立趣意および記録収集作業詳細の案について提示し、質疑応答、情報交換を行った。次回、各社地震観測記録の収録状況、作業状況や今後の見通しについて確認の上、今後のスケジュールについて議論する予定とした。

②第2回 令和7年3月12日(木) 10:00～11:50

各事業者における加速度記録の確認状況およびデータ提出目標時期について共有を図った。

③第3回 令和7年6月18日(水) 10:00~11:40

各事業者における加速度記録の確認状況およびデータ提出目標時期について共有を図った。
また、最終的なりまとめ方針に関する確認を行った。

④第4回 令和7年10月29日(水) 10:00~11:20

データ整理に関する質疑応答のほか、一部事業者を除き令和7年12月末までに加速度記録を事務局に提出頂ける見通しであることを確認した。

⑤データ収集状況

国直轄、補助、水機構、電力等ダムにて対象ダムおよび地震の抽出がほぼ完了し、該当データを整理中となっている。一部事業者を除き令和7年12月末までに加速度記録を事務局に提出して頂いたのち、幹事団にて集約作業等を実施する予定。

(6) 大ダム調査及びダム施設概要調査(ダム台帳に登録、会誌に掲載)

ダム建設状況調査: 令和6年度末(R7.3.31)現在の工事中のダムについて「大ダム調査表」により調査し、「ダム建設状況調査表」にまとめ、会誌「大ダム」No.272に掲載した。

ダム施設概要調査: 令和6年度中(令和6年4月1日より令和7年3月31日まで)に竣工したダムについて調査し「ダム施設概要調査表」を作成した。

調査の成果をICOLD技術委員会“Committee of the World Register of Dams and Documentation”に報告する。2024年度(2024年4月~2025年3月)に27ダムが施工中(試験湛水を含む)であり、3ダムが竣工(試験湛水完了し工事関連業務終了・網掛け)した。

表-1.25 ダム建設状況

| 整理No. | ダム名 | 区分 | 事業者 | 所在地 | 目的 | 型式 | 堤高(m) | 堤体積(10 ³ m ³) | 試験湛水完了(予定年月) | ダム本体の施工者名 | 再開発の内容 |
|-------|--------|----|------|-----|------|----------|-------|--------------------------------------|--------------|------------------------|----------|
| 1 | 三笠ぼんべつ | 新 | MLIT | 北海道 | C | CSG | 52.0 | 214 | | 鹿島・飛島JV | |
| 2 | 成瀬 | 新 | MLIT | 秋田 | CHS流 | CSG | 114.5 | 4,850 | (2027.8) | 成瀬ダム堤体打設工事鹿島・前田・竹中土木JV | |
| 3 | 駒込 | 新 | 県 | 青森 | CH流 | PG | 84.5 | 317 | (2031.1) | 安藤・間・日本国土開発・鹿内組JV | |
| 4 | 川内沢 | 新 | 県 | 宮城 | C流 | PG | 39.7 | 54 | (2027.3) | 西松・奥田・グリーン企画JV | |
| 5 | 鳥海 | 新 | MLIT | 秋田 | CHS流 | CSG | 81.0 | 1,438 | | 鳥海ダム本体建設工事西松・奥村・フジタJV | |
| 6 | あいのの | 再 | MAFF | 秋田 | I | TE | 40.8 | 293 | (2025.12) | 清水建設(株) | 堤体補強盛土工時 |
| 7 | 南摩 | 新 | JWA | 栃木 | CS流 | ER(CFRD) | 86.5 | 2,400 | — | 大成建設(株) | |
| 8 | 利賀 | 新 | MLIT | 富山 | C工流 | PG | 112.0 | 514 | (2031) | 清水・鴻池JV | |
| 9 | 鶴川 | 新 | 県 | 新潟 | C流 | ER | 55.0 | 944 | — | 前田・東急・植木JV | |
| 10 | 胎内川 | 再 | 県 | 新潟 | CHS流 | PG | 93.0 | 315 | | 鹿島・福田・帆苺JV | 洪水吐増設 |
| 11 | 吉野瀬川 | 新 | 県 | 福井 | C流 | PG | 58.0 | 137 | (2026.3) | 安藤・間・建世・清水組・谷口建設JV | |
| 12 | 足羽川 | 新 | MLIT | 福井 | C | PG | 96.0 | 670 | (2029.6) | 清水・大林JV | |
| 13 | 新丸山 | 再 | MLIT | 岐阜 | CH流 | PG | 118.4 | 1,070 | (2036) | 大林・大本・市川JV | 嵩上げ |

| | | | | | | | | | | | |
|----|------|---|-------------|----|--------|-----|-------|-------|----------|----------------------|----------|
| 14 | 内ヶ谷 | 新 | 県 | 岐阜 | CH流 | PG | 84.2 | 330 | — | 前田・大日本・市川・TSUTUYA JV | |
| 15 | 双六 | 再 | 富山共同自家発電(株) | 岐阜 | H | PG | 23.4 | 13 | (2026.4) | 前田建設工業(株) | |
| 16 | 設楽 | 新 | MLIT | 愛知 | CIS流 | PG | 129.0 | 1,329 | (2035) | 鹿島・戸田・竹中土木JV | |
| 17 | 川上 | 新 | JWA | 三重 | CS流 | PG | 84.0 | 456 | — | 大林・佐藤・日本国土JV | |
| 18 | 鳥羽河内 | 新 | 県 | 三重 | C | PG | 39.0 | 53 | (2028.3) | 前田・水谷・磯部JV | |
| 19 | 平瀬 | 新 | 県 | 山口 | CHS流 | PG | 73.0 | 330 | 2024.3 | 清水建設・五洋建設・井森工業・ナルキJV | |
| 20 | 波積 | 新 | 県 | 島根 | C流 | PG | 48.2 | 69 | 2024.6 | 安藤・間・今岡工業・原工務所JV | |
| 21 | 椈川 | 新 | 県 | 香川 | CS流 | PG | 88.5 | 443 | | 安藤・間・今岡工業・原工務所JV | |
| 22 | 和食 | 新 | 県 | 高知 | CS流 | PG | 51.0 | 70 | (2025.3) | 大成JV | |
| 23 | 春遠第1 | 新 | 県 | 高知 | CS流 | PG | 31.0 | 28 | (2028.3) | 熊谷・須工ときわ・伊与田JV | |
| 24 | 早明浦 | 再 | JWA | 高知 | CHIS工流 | PG | 106.0 | 1187 | — | 大林・佐藤JV | 洪水処理能力増強 |
| 25 | 伊良原 | 新 | 県 | 福岡 | CS流 | PG | 81.3 | 420 | 2024.12 | 大成・フジタ・岡本土木JV | |
| 26 | 大分川 | 新 | MLIT | 大分 | CS流 | ER | 91.6 | 3,799 | — | 鹿島・竹中土木・三井住友JV | |
| 27 | 本明川 | 新 | MLIT | 長崎 | C流 | CSG | 60.0 | 610 | | 大成・熊谷・西海JV | |

区分 新：新設、再：再開発

事業者 MLIT：国土交通省、MAFF：農林水産省、JWA：水資源機構

目的 C：洪水調節、H：発電、I：灌漑、S：都市用水、工：工業用水、流：流水の正常な機能の維持

1.2.3 内外情報発信事業（分科会報告等）

(1) 企画委員会 編集分科会

令和7年度は、企画委員会編集分科会の編集方針に基づき、会誌を4号発行した。

国際シンポジウム発表論文紹介、技術講演討論会概要等を掲載し、日本大ダム会議の活動及び内外のダム技術関連情報等を会員及び一般購読者等に広く紹介した。

表-1.26 会誌「大ダム」掲載主要記事

| 号 | 主要記事 |
|-----------------|---|
| 270 (2025.1) | 巻頭言 年頭のご挨拶 |
| | ICOLD をめぐる動き（第68報）－ ICOLD 年次例会 総括報告－ |
| | ICOLD 2024 第92回年次例会報告 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・技術委員会報告（TC-A～TC-YPF：21分野の委員会報告） ・ワークショップ報告（WS1.～WS7.） ・特別ワークショップ報告（リビア Derna & Abu Mansur ダム決壊） ・シンポジウム報告（9セッション） |

| | |
|-----------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・APG 会議報告 ・技術展示報告 |
| | 国際大ダム会議 技術委員会(HWS:水利遺産、I:公衆安全)活動内容の紹介 |
| | 第12回東アジア地域ダム会議(EADC)名古屋 発表論文(その3) 論文2編 |
| | 技術委員会報告 既設ダムの合理的な運用・活用方策検討分科会報告 |
| | ダム現場見学会報告(佐久間ダム、船明ダム) |
| | 第57回ダム技術講演討論会開催報告 |
| | 追悼文 吉越洋元会長のご逝去を悼む |
| | 随想 ダム一筋の会社生活を振り返って |
| | 日本大ダム会議会員紹介(株J-POWERハイテック、四国電力(株)、清水建設(株)、(一財)水源地環境センター(WEC)) |
| 271 (2025.4) | <p>巻頭言 気候変動時代におけるダム技術者育成の課題</p> <p>ICOLD をめぐる動き(第69報) - ICOLD 幹部会-</p> <p>ICOLD2024 インド発表論文(その1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブテーマ1 ダムと人々への水の安全保障、洪水調節、類似の利益を考慮した多目的ダムと貯水池(2編) ・サブテーマ2 貯水池の統合管理 - 同一河川流域の複数ダムの同期運転 - 洪水調節、貯水量の最適化水力発電の最適化など(3編) ・サブテーマ3 気候変動の影響評価と適用、運用(1編) ・サブテーマ4 ダムと再生可能エネルギー - 再生可能エネルギーを利用したダムと持続可能性(2編) |
| | 国際大ダム会議 技術委員会(H:ダム安全)活動内容の紹介 |
| | 随想 シリアにおけるダム管理の技術協力の思い出 |
| | 日本大ダム会議会員紹介((一社)セメント協会、センチュリテクノ(株)、大成建設(株)、(株)竹中土木) |
| | 資料 令和7年度定時社員総会資料 |
| 272 (2025.7) | <p>巻頭言 ダム建設現場の魅力</p> <p>ニュース アルバニア大ダム会議来日報告</p> <p>ICOLD をめぐる動き(第70報) - ICOLD 幹部会-</p> <p>国際大ダム会議第28回大会および第93回年次例会 速報</p> <p>エネルギー転換と気候変動への適応のためのダムと貯水池に関する成都宣言</p> <p>ICOLD2024 インド発表論文(その2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブテーマ4 ダムと再生可能エネルギー - 再生可能エネルギーを利用したダムの経済的貢献(1編) ・サブテーマ5 ダム工学と建設 - ダム建設における課題と解決策(2編) ・サブテーマ7 ダムの再開発と改良 - 老朽化したダムの診断解析及び改修(2編) ・サブテーマ8 環境・社会的側面 - ダム・水力発電事業の計画、設計、建設、運営における生態系への配慮(2編) ・サブテーマ9 ダム建設における最新技術の進化 - ビルディング・インフォメーション・モデリング(BIM)とドローンの活用による建設進捗状況のモニタリング(1編) <p>JCOLD-YPF 第一回勉強会の報告</p> <p>国際大ダム会議 技術委員会(A:計算問題、S:洪水評価)活動内容の紹介</p> <p>随想 治水としてのダム</p> <p>日本大ダム会議会員紹介((一財)ダム技術センター、中国電力(株)、中電技術コンサルタント(株)、中部電力(株))</p> <p>資料 ダム建設状況表</p> |
| | 巻頭言 エネルギーの安定供給に資する水力発電であるために |

| | |
|-------------------|---|
| 273 (2025. 10) | <p>ニュース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HONORARY MEMBER に叙せられて ・栄えある『ICOLD Innovation Award 2025』受賞報告 ・日中韓水ユース交流セミナーへの参加報告 ・IAHR 会長 Philippe Gourbesville 氏, ICOLD 元副総裁 Dean B. Durkee 氏, GEIConsultants 副社長 David Gutierrez 氏の来日について ・韓国大ダム会議および韓国水力・原子力発電との技術交流 ・書籍紹介「農業用ダム保全管理工学」 |
| | ICOLD をめぐる動き (第 71 報) – ICOLD 幹部会– |
| | <p>ICOLD2025 成都参加報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術委員会報告 (A~YPF, 21 委員会) ・Asia Pacific Group (APG) 会議報告 ・APG 地域会議における安全管理等に関する発表の概要 ・APG ワークショップ報告 ・CMD 技術委員会 (P) のワークショップ報告 ・ICOLD List of Dam Experts (ダム専門家資格制度) ワークショップ報告 ・大会課題報告 <ul style="list-style-type: none"> Q108 気候変動に対応するダムの貯水池 Q109 次世代に適合するダムと堤防 Q110 極端水文事象時のダムと堤防の安全 Q111 ダムの地震時の性能と安全 ・シンポジウム報告 <ul style="list-style-type: none"> 気候変動下におけるダムと河川流域の予防的管理 ダム・貯水池の多面的機能開発 複雑 (極端) 条件下におけるダム建設技術 ダムのデジタル技術及び流域のデジタル化 ・技術展示会報告 ・技術見学会参加報告、プレ・ポストスタディーツアー参加報告 |
| | 国際大ダム会議 技術委員会 (N: 啓発・教育) 活動内容の紹介 |
| | 随想 埋没するダム屋からの脱却 |
| | 日本大ダム会議会員紹介 (電源開発株、(一財)電力中央研究所、(一社)電力土木技術協会、東京電力ホールディング株) |

(2) 企画委員会 広報環境分科会

ICOLD 大会開催に合わせて刊行している冊子 “Dams in Japan” の企画・執筆・編集を行った。300 冊を印刷し、このうち 160 冊を成都大会・年次例会の技術展示日本ブースで配布した。

冊子は、「ダム Map」、「日本大ダム会議の概要」、「日本におけるダムの開発状況」、「ダム再生ビジョン・日本のダム技術」、「ICOLD 等発表論文の各々の概要」によって構成した。

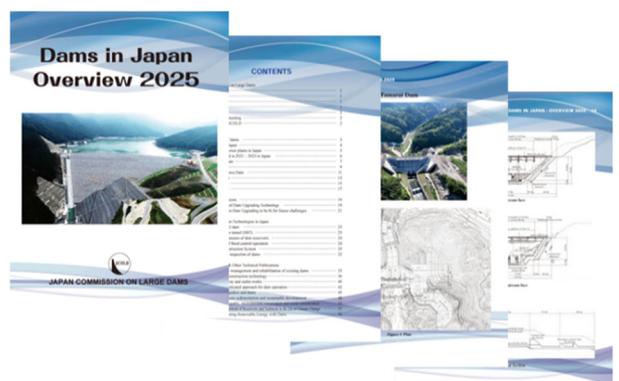


図-1.23 Dams in Japan Overview 2025

(3) ICOLD 技術展示企画運営委員会

1) 委員会の開催

1月14日(火)、2月4日(火)、2月26日(木)、3月24日(月)、4月14日(月)、6月23日(月)の6回に亘り委員会を開催し、主に以下の内容などについて検討を重ねた。

展示テーマと内容の検討、ポスター内容とデザイン、各社の技術紹介内容の確認、ブース内の配置、備品の確認、モニター・動画手配、ノベルティーの検討、輸送品の梱包、 SHIPPINGリスト作成、携行品の確認と分担、当日当番反省と次年度への展開 (6/23)

2) 展示テーマの選定

今回の展示テーマは、前回インド例会で採用した「Japanese Advanced Dam Technologies for Achieving SDGs」を再度選定した。日本のダム建設や維持管理における自動化技術を始めとした DX 技術やダム再生における新技術が SDGs に貢献できるという観点で、今回の大会・年次例会のテーマ・サブテーマにもマッチすると考えた。

3) 展示物・展示方法の検討と展示物の製作

展示物は、前回と同様、ポスターとモニターによる動画再生を行うこととした。展示ブースの壁面が2面のため、1面にメインポスター、もう1面に参加各社の技術を紹介するサブポスターを展示することとした。技術紹介はポスターに掲載している内容のQRコードをiPadで読み取り、動画や資料のコンテンツを閲覧できるようにした。



図-1.24 展示メインテーマポスター

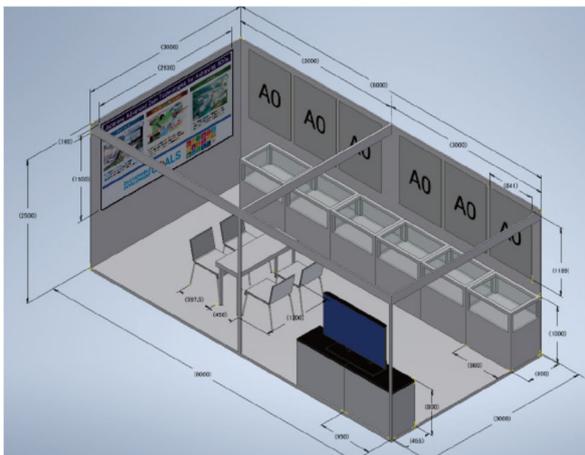


図-1.25 JCOLD ブース

4) 技術展示会の設営と運営

技術展示会の設営と運営のために16名の委員(代理を含む)が現地入りした。設営は、荷物が到着した展示開始前日の昼前に現地参加メンバーで実施した。運営状況は前述のとおり。(p.8 参照)

5) アンケート収集と集計結果

来場者には、氏名、国名、所属、興味のある技術や日本に対する要望などをアンケート用紙に記載してもらった。計 133 名の方に回答を頂き、そのうち 83 名（約 60%強）の方が中国人であった。その他はイラン、オーストラリア、インドといった国々から回答を頂いた。

ダム技術に興味を持つ分野は同じく図- 1.26 に示す通り「ダムのモニタリング」「環境マネジメント」「ダムの運用」「貯水池堆砂管理」であり台形 CSG ダムを含む施工面についての関心は次位であった。今年の特徴としては自由意見欄に AI の活用について興味を持たれている方が複数名いらっしやった。

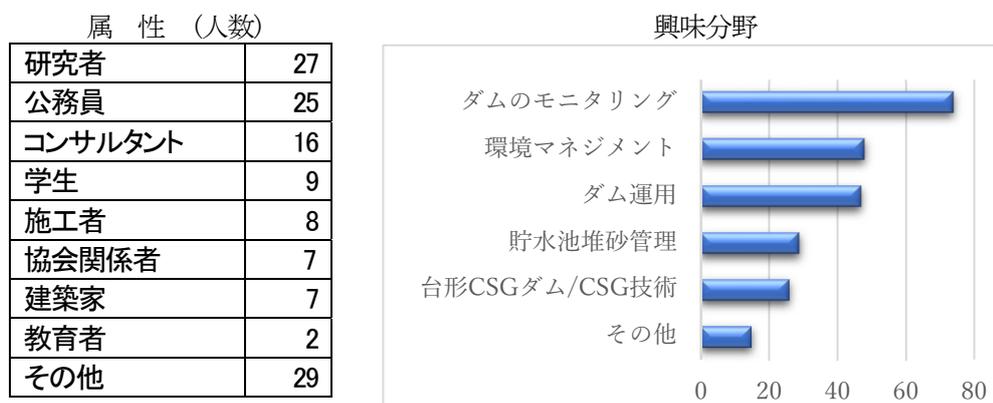


図- 1.26 回答者属性と興味分野

1.2.4 技術交流・指導事業

(1) 第 58 回ダム技術講演討論会

第 58 回ダム技術講演討論会を令和 7 年 11 月 12 日（水）に月島社会教育会館 4F ホールにて開催した。開催プログラムは以下のとおり。会場ならびに WEB を合わせ 155 名の参加があった。

10 : 30 ~ 10 : 40 開会挨拶 平井 秀輝 (一社)日本大ダム会議 会長
 司会 柏柳 正之 (一社)日本大ダム会議 専務理事 : セッション 1、2
 山口 嘉一 (一社)日本大ダム会議 常務理事 : セッション 3、4
 荒井 猛 (一社)ダム・堰施設技術協会 技術部長 : セッション 5

セッション 1 「国際大ダム会議 (ICOLD) 副総裁活動報告」

10 : 40 ~ 11 : 30 角 哲也氏 (ICOLD 副総裁、京都大学)

セッション 2 「足羽川ダムの計画、設計、施工について」

11 : 30 ~ 12 : 20 橋爪 翔氏 (近畿地方整備局 足羽川ダム工事事務所)

~ 12 : 30 質疑応答

12 : 30 ~ 13 : 30 ——— 昼食休憩 ———

セッション 3 「日本大ダム会議 技術委員会分科会活動報告」

13 : 30 ~ 14 : 10 ●ダムコンクリート凍害実験研究分科会

小林 保之氏 (東京電力ホールディングス株)

~ 14 : 20 質疑応答

セッション 4 「ICOLD 第 28 回大会及び第 93 回年次例会報告」

- 14 : 20 ～ 14 : 40 ●エネルギー転換と気候変動への適応のためのダムと貯水池に関する成都宣言
柏柳 正之 (日本大ダム会議)
- 14 : 40 ～ 15 : 00 ——— 休 憩 ———
- 15 : 00 ～ 15 : 50 ●課題討議報告
- Q108 気候変動に対応するダムと貯水池
山口 嘉一氏 ((一財)ダム技術センター)
- Q109 次世代に適合するダムと堤防
野崎 渉太氏 (電源開発株)
- Q110 極端水文事象時のダムと堤防の安全
恩田 千早氏 (電源開発株)
- Q111 ダムの地震時の性能と安全
松岡 賢樹氏 (関西電力株)
- ～ 16 : 00 質疑応答
- セッション5 「ダム・堰施設技術協会 会員活動報告」
- 16 : 00 ～ 16 : 40 ●社ロダム洪水吐ゲート脚柱部ほか修繕工事における取組み
平田 靖喜氏 (西田鉄工株)
- 豊沢ダム洪水吐および放流施設ゲート取替工事報告
香川 友成氏 (豊国工業株)
- ～ 16 : 50 質疑応答
- 16 : 50 ～ 17 : 00 閉会挨拶 加納 茂紀 (一社)ダム・堰施設技術協会 参与

(2) 第48回ダム現場見学会

(一社)ダム工学会との共催により、令和7年11月27日(木)～28日(金)(1泊2日)の行程で、ダム現地見学会を開催した。参加者数は、41名であった。

今回は、ダム再生事業が進められている早明浦ダム(水資源機構)を見学した。早明浦ダム再生では、洪水調節能力向上のため、大容量の高圧放流設備3門を堤体に増設する工事が実施されている。

表-1.27 早明浦ダムの諸元

| ダム名 | 早明浦ダム |
|---------|---|
| 所在地 | 左岸：高知県長岡郡本山町大字吉野 右岸：高知県土佐郡土佐町大字中島 |
| 目的 | 洪水調節、不特定利水、灌漑、上水道、工業用水、発電 |
| 型式 | 重力式コンクリートダム |
| 流域面積 | 472 km ² |
| 総貯水容量 | 3億1,600万 m ³ |
| 堤高 | 106.0 m |
| 堤頂長 | 400 m |
| 堤体積 | 1,200 千 m ³ |
| 事業者/管理者 | 水資源機構 |
| 着工/竣工 | 1963 着工/1975 完成、再生 2018 着工/2028 完成 (予定) |

【行程】(高知空港集合、高知空港解散)

《11月27日》

- 13:00 高知空港集合・発 大型バス1台にて移動
 14:30 現場着
 講義(事業者による事業説明、上流仮締切の設計、増設放流設備の設計、
 増設放流設備の施工)、工事ビデオ、質疑応答を含む
 17:00 現場発
 18:30 ホテル着
 19:00 懇親会
 ≪11月28日≫
 09:30 現場着
 現場見学(堤体削孔、減勢工、仮設備、上流仮締切、放流管組立ヤードなど)
 13:30 現場出発
 15:00 高知空港着・解散



(3) JCOLD-YPF 活動

令和7年度は、若手による現地見学会と勉強会を実施した。

1) 現地見学会 (2025/11/18)

今回は試行的に少人数かつ委員が所属する会社から参加者を募集するかたちでの実施とし、委員含めて14人が参加した。見学地は施工中のダムを対象とし、中部地方整備局の設楽ダムとさせて頂いた。

表-1.28 見学当日の行程

| 時間 | 内容 | 説明者 |
|-------------|-------------|-------------------|
| 10:10~10:30 | 事業概要説明 | 中部地方整備局 様 |
| 10:45~11:30 | 堤体工事概要説明 | 鹿島建設 様 |
| 11:30~12:00 | ダムサイト地質概要説明 | 日本工営 様 |
| 13:00~15:00 | 現場での説明 | 鹿島建設 様、 日本工営 様 |
| 15:00~15:30 | まとめ・Q&A | 鹿島建設 様 |



図-1.27 参加者集合写真

2) 勉強会 (2025/12/15)

第二回となる勉強会（一回目は、R6.12 に実施）にはダムに関する、建設コンサルタントやゼネコン、電力会社のほか、研究機関、メーカー等からも含め幅広い参加があり、計 34 人の若手技術者が集った。

今回は京都大学の角特定教授、小柴助教をお招きし、ご講演いただいた。また、ご講演いただいた内容を踏まえ、グループディスカッションにて意見交換を行った。

表- 1.29 勉強会プログラム

| 時間 | 内容 |
|-------------|-------------------------|
| 14:00~14:15 | 趣旨説明・現地見学会報告（実行委員） |
| 14:15~15:15 | 若手専門家からの活動紹介（京都大学 小柴助教） |
| 15:15~16:15 | 講演会（京都大学 角特定教授） |
| 16:15~16:30 | 休憩 |
| 16:30~17:00 | グループディスカッション |
| 17:00~17:15 | 発表 |
| 17:15~17:30 | 角特定教授・小柴助教より講評 |

「おもしろい仕事」を考える

- ・ 時間軸は自由（いまやっていることでも、30年後でも）
- ・ 現実的でもいいし、想像的でもいい
- ・ 具体的なプロジェクトでもいいし、制度や枠組みでもいい
- ・ “現在の悩み”を起点に考えてもいい

角先生の講演からのキーワード

- **ダム**の視点
 - ・ 単純なダム新設の時代ではない
 - ・ 既存のダムの課題に向き合う
 - ・ 再開発、有効活用、ハイブリッド
- **個人**の視点
 - ・ 専門領域、サブ領域を作る
 - ・ 仲間を作る、増やす
 - ・ 仲間から学ぶ
 - ・ 新しいアイデアや試みを見出す
 - ・ アクションをする

小柴先生の講演からのキーワード

- **アルバニア**の課題から見えること
 - ・ 海外には困っている国・地域がある
 - ・ ダムの老朽化、貯水池の不安定
 - ・ 日本には無いほど詰み合った課題
 - ・ 課題が相互にトレードオフになっている
 - ・ データが少ない
 - ・ 対策の提案ではなく「判断能力」が欲しい
 - ・ ひとりではできない。知見の共有、協力

図- 1.28 グループディスカッションテーマ



図- 1.29 勉強会と参加者